

【コラム3】 〈中山間地域における伝統芸能の継承と将来像〉

浜松市には中山間地域を中心に、正月行事の田楽やおくない、霜月行事の花祭りなど、豊かな歴史と風土によって育まれた多様な芸能・祭礼が継承されています。一方で、過疎化や少子化、高齢化といった変化が急激に進んでおり、後継者及び支援者の育成や確保が喫緊の課題となっています。

このような中、2013（平成25）年、各地域の無形民俗文化財の保存会が集まり、民俗芸能の保存継承に関する取組や課題などの情報を共有するため、「浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会」を組織しました（2024（令和6）年12月現在、22の保存会と2つの関係団体が加盟）。2020（令和2）年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、継承に大きな影響を与え、ほぼ全ての民俗芸能が休止もしくは規模縮小を余儀なくされました。しかし、困難を乗り越え、地域の歴史と文化を守っていくという強い信念のもと、2023（令和5）年5月以降ほとんどが再開されました。その背景には、連絡会を中心とした団体相互の情報交換や発信の活動がありました。

また、2016（平成28）年からは、浜松学院大学の学生を中心とした団体が天竜区春野町に伝わる市指定無形民俗文化財「勝坂神楽」と浜名区引佐町川名に伝わる国指定重要無形民俗文化財「川名のひよんどり」に参加するようになりました。両保存会と継続してコミュニケーションを取ることで信頼関係を築き、舞の演者や楽器の演奏者として関わるだけでなく、ICTを活用したPRやこどもたちへ民俗芸能の魅力を伝える活動を行っています。学生団体は、2022（令和4）年3月には法人格を取得し、現在は「NPO法人わたぼうしグランドデザイン」として活動を継続・展開しています。

中山間地域では、文化財を核として人と人とが地域を越えてつながり、貴重な文化・歴史・財産を未来へつなげるための努力・活動が積み重ねられています。



「遠江・山と里の民俗」（浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会発行）とポスター